



# 関中央ロータリークラブ

2018-2019 WEEKLY REPORT

例会日：毎週木曜日 18時30分 例会場：関観光ホテル 住所：関市池尻 91-2  
事務局：関市西本郷通 5-2-53 TEL (0575) 24-7332 FAX (0575) 23-5278  
会長 波多野篤志 副会長 古田博文 幹事 吉田和也 クラブ会報委員長 塚原康寿

2018~2019年度 関中央ロータリークラブ会長テーマ  
「自ら行動するロータリーへ！」



インスピレーションになるう

4つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

本日のプログラム 第1968回例会 2019年2月28日(木) 担当 ニコボックス委員会  
会員卓話 尾崎 将之 会員 テーマ 「あなたの知らない麻酔科医の生態」

前例会の記録 第1967回 2019年2月21日(木)  
卓話 関消防署長 細野 正則様  
テーマ 「緊急消防援助隊とは」  
担当 青少年育成委員会

\*ロータリーソング「我等の生業」斉唱

\*お客様の紹介 関消防署長 細野 正則様

\*会長あいさつ 波多野篤志会長

先月の1月19日に岐阜グランドホテルにて会員増強セミナーが、開催されました。吉田幹事と波多野好文増強委員長と私の三人で参加してきました。



まず初めに地区研修委員会の河野仁委員よりご挨拶が有りました。その中のお話で、新会員は、2年目で52%、また、10年目以上に辞めやすい傾向が有るそうです。その対策としてロータリーインターナショナルは、例会の完全な出席より、積極的な活動への参加を打ち出した。社会奉仕や国際奉仕に活躍した方が良いので、例会は月2回でも良いことにした。

退会の理由としては、会費と時間が負担である。クラブの環境として、同世代の会員が居ない。ボランティアなどの活動に期待して入ったのにやっていない。などの3つが多い理由だそうです

次に、木村静之ガバナーが、「現状報告と会員増強について」お話になられました。現在、日本のロータリアンはピーク時に13万人いましたが、現在は、10万人を切って、9万人に成ったそうです。そんな中でこれからのロータリーに大事なことは、職業奉仕と職業倫理観を大切にすることだと言われました。次の基調講演は、会員増強部門委員長 山本和央さんの「入会促進と退会防止」についてのお話でした。今年度のガバナー方針は、1つのクラブで1名の純増をお願いしたい。又、90%以上の維持率が目標です。あと、女性会員を増やしてほしいでした。会員増強は、会長、幹事、増強委員だけがやることではなく、会員一人一人が行うことです。全員で仲間を作ることが大切です。会員増強のチェックポイントとしては、成功例に学ぶことです。

会員増強の成功例としましては、

- ・プロジェクトチームを作る。
- ・会員が誘う、声かけをすることが大事。
- ・女性会員を入れることが大事。

などが挙げられるそうです。

退会防止については、

- ・入会者には、よくロータリーの説明をしておくこと。
- ・出席率は、100%の時代ではないので、各クラブで考えて行ってほしい。

などでした。

これからは、若い世代の方を入れていただければ、もっと活発なロータリー活動、奉仕活動が出来ると思います。会員はロータリーの財産です。で締めくくられました。午後からは意見交換会で、いろんなクラブの意見を聞くことが出来ました。

入会促進の方策としては、

- ・10名程度のパスト会長で委員会を立ち上げて行う。
- ・職業卓話の例会にビジターを誘う。

などの意見が出ました。

退会防止の方策

- ・コミュニケーションをとる。
- ・情報委員会の活動が大切。などの意見が出ました。

残り4か月で今期も終わりますが、ガバナー方針の1名純増を目指して頑張りますので、皆さんのご協力をよろしくお願いします。

## \*卓話

関消防署長 細野 正則様

テーマ 「緊急消防援助隊とは」

ただいま紹介を頂きました関消防

署の細野でございます。皆さまには

日頃より消防行政にご理解とご協力を頂きお礼申し上げます。昨年は記録的な豪雨に見舞われ津保川が氾濫し、上之保地域、武儀地域、富野地域を中心に浸水害や家屋倒壊等の甚大な被害をもたらした7月豪雨、9月には台風21号の上陸により暴風による建物被害や倒木により道路の通行障害や電線の破損による停電が発生するなど、様々な災害がこの地域で発生いたしました。被害を受けられました方々にはお見舞申し上げます。

今年は平穏な年であることを願っております。し



かしながら先日、「亥年は大きな災害が起こりやすい」といった喜ばしいとは言えない話を耳にし、インターネット検索をしてみますと「関東大震災」「伊勢湾台風」新しいところでは「阪神淡路大震災」や「新潟中部地震」が亥年に発生しております。亥年以外でも大きな災害は発生しておりますが、日本で過去に起きたM7.6以上の大地震の発生はやはり亥年に多く、亥年には大きな地震が起きやすい傾向があるようです。

最近ではいつ起きてもおかしくないと言われている「南海トラフ地震」、決して亥年の今年に発生すると言っているわけではありませんが、災害はいつ起きるかわかりません。

皆さんは「自助」「共助」「公助」という言葉を聞かれたことはありませんか。ひとたび大規模な災害が発生した時に被害の拡大を防ぐには「公助」といわれる国、県、市や消防の公的機関の活動には限界があります。そこで自分の身を自分の努力によって守る「自助」とともに、普段から顔を合わせている地域や近隣の人々が集まって互いに協力し防災活動に取り組む「共助」が必要となります。

「自助」「共助」については、各地域等で行われます防災訓練などで訓練して頂いておりますので、本日は私ども消防機関の「公助」についての取り組みのひとつ、「緊急消防援助隊」について話をさせていただきます。

消防機関は原則、市町村単位で運営され、管轄する市町村において各種の消防行政及び災害活動を行っておりますが、大規模災害や特殊災害が発生した時など、被災地の消防機関だけでは対処が困難なことが予想されます。このような場合には、被災地以外の都道府県内の各消防本部の消防車両及び隊員で出動隊を編成して応援に駆け付け、消火・救助・救急活動などを行う隊を「緊急消防援助隊」といいます。この緊急消防援助隊の出動は被災地からの要請により、国からの出動要請により出動するものです。

私たち消防関係者は、緊急消防援助隊を略して「緊援隊」と呼んでいますが、中部圏以外では「緊消隊」と呼んでいるところもあります。

では、緊急消防援助隊はいつ頃に組織されたので

しょうか。

平成7年1月17日と言えば皆さんも記憶にあるかと思いますが「阪神・淡路大震災」。木造住宅やビルの倒壊、阪神高速の崩落、同時多発している火災など悲惨な光景を今でも忘れることが出来ません。

発生から7時間後、岐阜県消防課から被災地への応援出動可能な車両数と隊員数の緊急報告要請、その後県からの出動要請により18時41分に羽島インターに県下消防本部の車両及び隊員が集結し、発災から12時間後に岐阜県隊として被災地に向け出動しました。

未曾有の大災害「阪神・淡路大震災」の発生当時には、まだ緊急消防援助隊という組織はなく、発災地の兵庫県知事の応援要請後、国の出動要請により、岐阜県の各消防本部が広域応援出動いたしました。この出動で、中濃消防組合は消防ポンプ車1台と隊員5名を第1次隊として派遣し、その後第6次隊まで延べ26名を派遣しております。阪神淡路大震災では、発災当日1月17日24時まで全国から170部隊、隊員約900人が被災地に到着いたしました。

被災地での活動は、応援をする側及び受け入れる側の体制が整っていなかったことから、被災地の災害対策本部との情報共有や各応援隊への活動に関する円滑な指示がとられなく、各応援隊独自の判断で活動するなど、様々な課題が浮き彫りとなりました。これらを教訓に、大規模災害時における人命救助活動等をより効果的かつ充実したものとするため、平成7年6月に緊急消防援助隊が創設されました。今年24年目を迎える緊急消防援助隊の出動回数は30数回にのぼり、主な活動では、十勝沖地震、新潟県中越地震、東日本大震災など地震災害のほか、有殊山や御嶽山噴火災害、広島市での土砂災害や昨年7月、西日本を中心に記録的な大雨となった7月豪雨についても広島県や岡山県に出動しております。緊急消防援助隊の創設以降、中濃消防組合は東日本大震災に救急隊、救助隊、消火隊が出動しており、発災から3時間後には県下消防本部が集結し岐阜県大隊として出動しております。

お気づきでしょうか。発災から出動までの時間が、阪神淡路大震災の時と比較すると大きく短縮されて

います。

緊急消防援助隊は、都道府県単位で組織され、岐阜県隊は指揮隊、消火小隊、救助小隊、救急小隊、後方支援小隊、通信支援小隊等で編成されています。このほか、防災ヘリなどの航空小隊、毒劇物災害など特殊な災害に対応する特殊災害小隊、水陸両用車や悪路でも走行可能な特殊な車両や資機材を装備した特殊装備小隊などがあり、地震だけでなく風水害、毒劇物や危険物災害など様々な災害に対応できるよう組織され、全国の各消防本部はそれぞれ消防本部の規模等によりいずれかの小隊に登録しております。

では、全国の消防本部の登録状況としましては平成30年4月1日現在、全国725消防本部から5978隊が登録されています。このうち岐阜県は20消防本部、139隊が登録され、このうち中濃消防組合が登録している車両は消火小隊に消防ポンプ車3台、救急小隊に救急車1台、救助小隊に救急工作車1台、後方支援小隊に後方支援車1台の計6台を登録しております。

先ほど東日本大震災へ出動した中濃消防組合は消火、救助・救急各隊で出動したと申しましたが、東日本大震災翌年に新たに後方支援小隊として後方支援車両が追加となっております。この後方支援車は総務省から貸与された車両です。

阪神淡路大震災の被災地で活動した各隊員は、消防署の会議室や出動車両での仮眠、お湯を沸かす手段もないため食事は持参したパン等で済ますなど、とても過酷な状況で活動しました。また、車両の燃料調達、隊員のトイレなど様々な問題がありました。特に不便であったのはトイレでした。これらの教訓を生かして装備された車両が後方支援車、この車両には隊員が仮眠をとるためのエアータントや寝袋、冷暖房機器、そして簡易トイレなどが装備され隊員の活動を支援するための車両です。

緊急消防援助隊が出動する際には各都道府県大隊それぞれ完全完結型を基本としており、衣食住に関する物品は出動時に持参し、帰隊するときにはゴミはもちろんのこと簡易トイレに残るものさえ持ち帰ります。また、隊員の食料として持っていくカップ麺のスープでさえ捨てないよう徹底しており、被災

地の関係者に煩わしい面倒をかけることなく、援助隊としての目的の達成のため資機材や装備の充実及び緊急消防援助隊の登録隊の増強を今なお国が進めております。

阪神淡路大震災では12時間後、東日本大震災では3時間後に岐阜県大隊は被災地に向け出動。いかに緊急消防援助隊が迅速に出動しているかお分かりでしょうか。

緊急消防援助隊は迅速な出動をするために様々な事項を定めています。その一つとして被災地ごとに活動する都道府県を定めた出動計画があります。

この計画は近隣県への迅速出動と、さらに応援が必要となった場合に活動する「基本計画」、首都直下型地震や東海地震、南海トラフ地震発生時の活動計画「アクションプラン」が定められております。

基本計画では岐阜県大隊は「富山、石川、福井、長野、愛知、滋賀県」において震度6強以上の地震が発生した場合には近隣県へ迅速に出動、また「東京、神奈川、山梨、静岡、三重、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山県」において震度6強以上の地震が発生し、さらに応援が必要となった場合に岐阜県隊が出動するよう決められています。

次に首都直下型地震や東海地震、南海トラフ地震発生時の活動計画「アクションプラン」についてもそれぞれ定められています。

首都直下型地震では、東京23区において震度6強以上が発生した場合に「神奈川県」、東海地震では、静岡、愛知、山梨、長野・神奈川・三重・岐阜・東京のうち2つの都県で震度6強以上が発生した場合、岐阜県の被害の状況により静岡・愛知・三重のいずれかに、南海トラフでは中部、近畿、四国・九州地方のいずれにおいても震度6強以上の地震が発生または津波警報が発表された場合に、岐阜県の被害の状況により三重県もしくは愛媛県に出動します。迅速に出動できるよう活動計画が定められているほか、中濃消防組合から活動する車両については隊員の指名がしてあります。指名された隊員はいつ何時、活動命令が発せられてもよいよう、活動に必要な装備品や着替えなどは常に準備をしているとともに、勤務日以外での活動に備え、緊急時の連絡体制など

様々な対応により、迅速な活動を心がけております。

ところで先程、東海地震や南海トラフ地震が発生した場合に岐阜県隊が被災地に向け活動すると申しましたが、疑問に思われませんでしたでしょうか。東海地震や南海トラフ地震では岐阜県も被災対象と予想されているのになぜ状況により他県に活動するのでしょう。

私自身、この計画をはじめ確認した時には目を疑いましたが、岐阜県は被災はするが、愛知、三重と比較すると被害が小さいと予想されていることから、岐阜県の被害状況を確認したのち可能な場合は他県へと応援活動することになります。

では、岐阜県の被害予測はどうでしょうか。南海トラフ地震による被害予測を愛知、岐阜、三重の3県で比較してみますと、愛知、三重は震度6強から震度7、岐阜は震度6弱、死者は愛知2万3千人、三重県4万3千人に対して岐阜県は200人、全壊建物は愛知39万棟、三重24万棟に対して岐阜県は3千2百棟といった予想から岐阜県隊が県内の被害の状況により他県へと応援活動するといった計画となっております。

なお、岐阜県が震源で震度6強以上の地震が発生したときには、長野、愛知、富山、福井の4県から迅速に応援活動してきます。

地震災害による緊急消防援助隊の活動計画について話をいたしました。このほか活動した各隊が円滑に活動するため、岐阜県緊急援助隊訓練や東海地区緊急援助隊訓練を毎年実施し連携活動力の向上を図っておりますが、やはり地震をはじめ大規模災害は起きてほしくないものです。

しかしながら、近年では想定外といった災害はないといわれ、様々な自然災害等が発生しております。

いつ起きてもおかしくないといわれる東海・南海トラフ地震。身を守るため事前の対策をするとともに、自らの命を守って頂き、共助へとお願いとともに関心自然災害では早期の避難をお願いいたします。

#### \*出席委員会

会員数32名、本日の出席18名です。

#### \*ニコボックス委員会

・会長・副会長・副幹事

関消防署長 細野正則様 本日はありがとうございます。  
緊急消防援助隊のお話、よろしくお願ひします。

・神谷秀幸君

本日は青少年育成委員会の担当です。関消防署長  
細野正則様に卓話をお願いしました。よろしくお願ひします。

・広瀬恒行君

酒づくり同好会の新酒「多笑」おいしくいただきました。  
ありがとうございました。

18名のご投函ありがとうございました。

#### <次例会の案内>

第1969回 2019年3月7日(木)

卓話 関市長 尾関 健治様

テーマ 「未定」

担当 出席委員会